

## 佐竹義輔\*：ホシクサ属の1新種について

Yoshisuke SATAKE\*：A new species of *Eriocaulon*

秋田県雄勝郡羽後町田代の梨木峠の近くに小規模の湿原がある。刈女木湿原といい、標高約320m、4ヶ所に散在し、最も広いものでもそれにつづく沼と合せて約1ヘクタールにすぎない。人手が加っていないためか、植物は豊富に繁茂し、多くの湿原植物が見られる〔三好功一：刈女木湿原について、植物と自然、18巻8頁(1974)参考〕。昨年8月、ここでホシクサ属の1種を採集した土田治兵衛氏は、コケヌマイヌノヒゲではないかと、三好功一氏を通して筆者に送ってきた。コケヌマイヌノヒゲ *Eriocaulon satakeanum* Tatewaki & Ko. Ito というのは、この湿原とは国道13号をはさんだ反対側、湯沢市の東南約20kmにある苔沼湿原から発見され、本誌40巻156頁(1965)に発表されたものである。

この未知のイヌノヒゲは、花を解剖して見るとエゾイヌノヒゲ *E. perplexum* Satake & Hara に似ている。しかし花が若すぎて決定できないので、9月によく成長した標本を送るよう依頼したところ、9月14日に採集したよい標本を生のまま送ってきた。ミズゴケに包まれた植物体を注意してほぐしてみると、驚いたことに、明瞭な茎をそなえているのである。

ミズゴケに埋っていたせいか白色で、根茎というべきかも知れないが、よく発達したものは長さ1-3cm、2-3の節があり、節間は5mm内外あり、節から根をだし、上部の節に葉をつけるものもある。花を見ると、雌花のがくは合生し、いわゆる合生がく節に属する。この節のもので茎をもつ種はコシガヤホシクサ(ふとくて短い茎がある)以外にはまだ記録がない。花の性質はエゾイヌノヒゲに似ているが、いろいろの点でちがうので新種と考定し、産地にちなみ和名はガリメギイヌノヒゲ、学名は発見者の土田治兵衛氏を記念し、*Eriocaulon tutidae* として発表することにした。

ガリメギイヌノヒゲ。1年草。茎は長さ1-3cm、径1mm、白色、2-3節、節間は約5mm。葉は線形、長さ7-13cm、基部の幅1mm内外、3脈、さきはしだいに細まる。鞘は長さ4-6cm、さきは斜裂、花茎は細く、4肋、ねじれ、高さ5-20cm。頭花は倒円すい形、径4-6mm。総苞片は5-10個、外片は披針形で長さ6-7mm、内片は卵状披針形で長さ4-5mm。花床に数細胞からなる長毛が密生する。1頭花中の花は5-14個、平均9個、雌花はふつう雄花より多いが、同数のもの、まれに少な

\* 浦和市 [REDACTED] Urawa City, Saitama Pref.

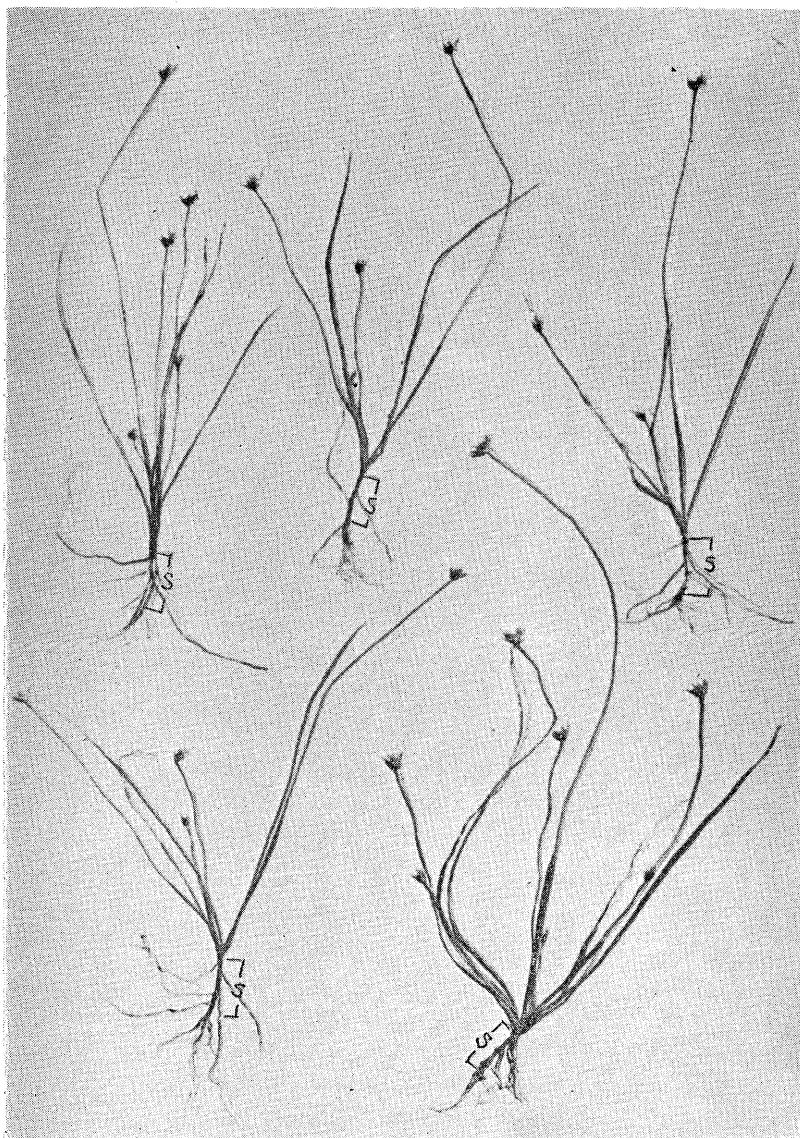


Fig. 1. *Eriocaulon tutidae* Satake. Type specimen. S, stem.  $\times 2/5$

いものもあり、20頭花の平均は雌花5、雄花4である。

雄花：長さ2mm内外、花苞は倒卵状長だ円形、長さ約2mm、銳頭、背面の上部に短毛がある。がくは長さ2mm、さきは3浅裂、裂片は鈍形で縁に短毛が散生するものとしないものとある。花弁は筒状に癒合しさきだけが3裂片になり短毛が散生する。雄しべは6個、花糸は短く、葯は黒色、長だ円形。

雌花：長さ約2.5mm。花苞は雄花のものと同じ、がくは長さ2.5mm、合生し、さきは3浅裂、裂片は鈍形で縁は無毛または短毛が散生、外面は無毛であるが、内面に長毛が密生する。花弁は3個、離生、披針形で基部は細い柄になり、白色海綿質で内面に長毛があり、先端の内側に黒色腺がある。側片の2個は長さ2.5mm、上端は無毛であるが背軸面の1個はやや長く上端に短毛がある。子房はふつう2室であるが、1室のものもあり、3室のものはまれである。その比はおよそ5:3:1である。子房1室のものでも柱頭が2個のものが多く見られることは、2室のものの1室が未発

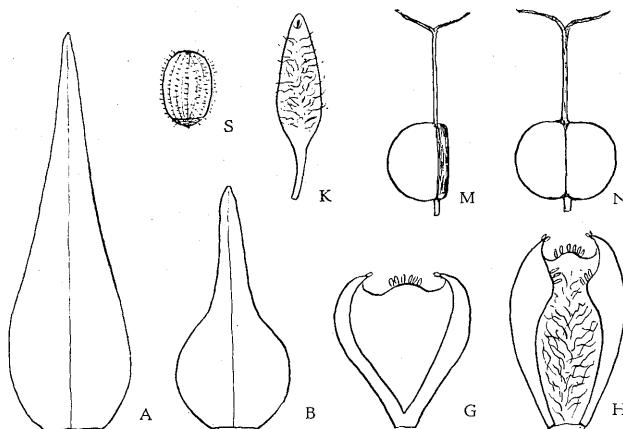


Fig. 2. *Eriocaulon tutidae* Satake. A-B, outer and inner involucral bracts. G, male calyx. H, female calyx. S, seed. K, female petal. M-N, uni- and bilocular ovaries. A-B  $\times 8$ . G, H, S, K, M, N  $\times 10$ .

育に終ったものと推定されるので、子房2室のものが圧倒的に多いとしてよい。種子は長だ円形で長さ1mmばかり、表面に微小なかぎ毛がある。エゾイヌノヒゲ *E. perplexum* Satake & Hara や、コケヌマイヌノヒゲ *E. satakeanum* Tatewaki & Ko. Ito に似ているが、次表のような相違がある。

	ガリメギイヌノヒゲ	エゾイヌノヒゲ	コケヌマイヌノヒゲ
茎, 長さ	10-30 mm	なし	なし
葉, 長さ	70-130 mm, 3 脈	20-60 mm, 5-8 脈	20-60 mm, 4-8 脈
鞘, 長さ	40-60 mm	20-40 mm	15-20 mm
花茎, 長さ	50-200 mm	50-140 mm	40-90 mm
頭花, 径	4-6 mm	3-6 mm	2-4 mm
花床	有毛	有毛	有毛
総苞外片, 形, 長	披針形, 6-7 mm	倒卵形, 3-4 mm	狭披針形, 6-9 mm
花苞	上部背面に短毛あり	上部背面に短毛あり	上縁にのみ短毛あり
雄花がく上端	3 浅裂, 鈍形	2-3 浅裂, 鋭形	3 浅裂, 鈍形
雌花がく上端	3 浅裂, 鈍形	2-3 浅裂, 鋭形	3 浅裂
子房室数	2 または 1, まれに 3	2-3	3

*Eriocaulon tutidae* Satake, sp. nov.

Caulis 1-3 cm longus, 1 mm crassus, 2-3 nodus. Folia linearia, 7-13 cm longa, basi 1 mm lata, apice sensim angustata, 3-nervia. Pedunculi 5-20 cm alti, pauce torti, 4-costati. Vaginae 4-6 cm longae, apice oblique fissae. Capitula turbinata, 4-6 mm in diametro. Bracteae involucrantes glabrae, medio virides, 1-nervatae, margine albescentes, apice acutae, exteriores lanceolatae, 4-5 mm longae, basi 2 mm latae, interiores ovato-lanceolatae quam exteriores breviores. Receptaculum pilosum, pilis 2-4-cellulatis. Bracteae fl. ♂ & ♀ subsimiles, ovato-oblongae, 2-2.5 mm longae, apice acutiusculae, dorso apicis sparse puberulae. Flos ♂: ca. 2 mm longus; sepala 2 mm longa, in spatham antice fissam connata, apice triundulata margine glabra vel pauce puberula; petala in tubum connata, apice trilobulata, lobulis perbrevibus; stamina 6, antheris oblongis atratis, filamentis brevibus. Flos ♀: ca. 2.5 mm longus: sepala in spatham antice fissam connata, intus dense pilosa, apice trilobulata, lobulis obtuso-triangularibus margine glabris vel pauce puberulis; petala 3, libera, spathulata, 2.5-3 mm longa, basi cuneato-stipitata, albo-spongiosa, extus glabra intus pilosa, apice nigro-glandulosa et glabra vel puberula, abaxialibus quam lateralibus paulo longioribus; ovarium 2- vel 1-, rarissime 3-loculare; semina oblonga, 1 mm longa, minutissime ciliata.

Nom. Jap. Garimegi-inunohige (nov.).

Hab. Garimegi moor, near Tashiro, Ugo-machi, Akita Pref. (Z. Tutida, Sept. 14, 1973—Type in TNS).